

平成30年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

平成30年4月1日～平成31年3月31日

令和元年8月

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

○教育委員会評価にかかる難易度基準の設定

難易度	難易度設定の基準
A	加西市独自に取り組むもので、達成が困難なもの
	国、県の基準を超えて加西市独自の基準で取り組んだもの
	定額交付金制度等における市費の予算措置の獲得と事業推進にかかるもの
	その他、障壁が大きく、客観的に達成困難と思えるもの
B	以前から取り組んでいるもので、達成に努力を要するもの
	国、県の基準で行うもので、達成が困難なもの
	要綱に則るが、市の推進方向、学校の実態に沿う取組で、達成が困難なもの
	その他、客観的に達成に大きな努力を要するもの
C	国、県の基準で行うもので、達成可能なもの
	以前から取り組んでいて、達成可能なもの
	その他、客観的に達成可能と思えるもの

○教育委員会評価にかかる達成度基準の設定

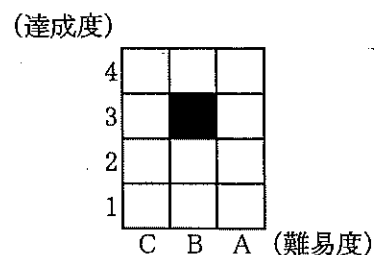
達成度	達成基準
4	目標を大きく超えて達成
3	目標を超えて達成
2	ほぼ目標を達成
1	目標を下回る

○評価基準の表示方法

評価基準の表示については、横軸：難易度、縦軸：達成度として塗潰して表示する。

難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。

右の例示は難易度B、達成度3。



平成30年度 加西市教育委員会点検評価総括表

基本理念	重点目標	実践目標	取組	評価		担当課
				容易度	達成度	
新しい時代を切り拓くこころ豊かで自立した人づくり	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます	1 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児期の教育・保育を充実します	体験的な活動の充実ならびに食育を通じて家庭、地域との連携推進を図る	B	2	こども未来課
			3～5歳児(36か月)の発達を見通した教育カリキュラムを実施する	B	2	
			子育て相談などの機会設定と療育・保健部門と連携した子育て支援を推進する	A	3	
		2 発達や学びの連続性を保つ保幼・小・中学校の連携教育を強化します	小1プロブレム・中1ギャップの解消を目指した各種委員会・研修講座等の充実と、「家庭学習ハンドブック」「発達支援ファイル」の活用を推進する	A	3	総合教育センター
		3 学力向上策の充実を図り、「確かな学力」を育成します	児童生徒の「確かな学力」を育成するため、授業改善に取り組むとともに、人的支援等によるきめ細かな指導の充実を図る	A	3	学校教育課
			学校との連携を深め、子どもたちの読書活動を支援する	B	3	図書館
		4 人間形成の基盤となる自尊心・自律性・道徳性など「豊かな心」を育てます	児童生徒の「豊かな心」を育成するため、道徳の時間を要した道徳教育の推進や体験活動の充実を図る	B	3	学校教育課
			いじめの積極的な認知と、未然防止、早期発見・早期対応における組織的対応の充実を図る	B	3	総合教育センター
		5 体育や健康教育、食育を推進して「健やかな体」を育てます	「健やかな体」を育成するため、授業改善等を通じた体力・運動能力の向上、栄養教諭を活用した食育指導等の充実を図る	B	2	学校教育課
			安全安心な学校給食を実施する	B	3	教育総務課
		6 家庭や地域と連携し、特色ある学校づくりを進めます	地域全体で子どもを守り育てる環境づくりを推進する	B	2	総合教育センター
		7 教職員としての資質能力の向上、研修の充実に努めます	キャリアステージに応じた資質や能力の向上・育成を目指した研修講座等の充実を図る	A	3	総合教育センター
	生涯を通じた「学び」を充実	1 市民一人一人のニーズと社会の要請に応える「学び」の場を提供します	学習機会を提供する	B	3	生涯学習課
		2 「いつでも、どこでも、気軽に」学べる公民館活動を充実します	学習成果を地域に還元する	B	3	生涯学習課
		3 ふるさとの豊かな歴史、文化遺産を活かしたまちづくりを進めます	指定文化財および埋蔵文化財の保護活用と情報発信に取り組む	B	3	生涯学習課
			地域歴史遺産の掘り起こしと活用及び文化財保存団体等の活動を支援する	B	3	
	支援し、支	1 子育て環境の充実を図ります	幼保連携型認定こども園の整備と学童保育の充実を図る	A	3	こども未来課
			特別保育ならびに保育料の負担を軽減する	B	3	
			親子のふれあいや地域交流を通じた子育て支援を実施する	B	2	
		2 命と人権を大切にす心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます	青少年の健全育成に係る関係機関・団体等との情報交換や合同研修活動等の充実を図る	B	3	総合教育センター
		3 安全・安心な教育環境を整えます	教育施設の老朽化度合いを考慮し、各年度に実施する改修工事件数を設定し、計画的に改修工事を実施する	B	3	教育総務課

< 施策評価の分布 >

実践目標を構成する各取組内容の評価分布数は、下記の表のとおりです。

難易度	A	B	C	合計		達成度	4	3	2	1	合計
施策数	5	16	0	21		施策数	0	16	5	0	21
割合(%)	24%	76%	0%			割合(%)	0%	76%	24%	0%	

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	1	「生きる力」の基礎をはぐむ幼児期の教育・保育を充実します
------	---	------------------------------

【 担当課 こども未来課 】

取組	1	体験的な活動の充実ならびに食育を通じて地域、家庭との連携推進を図る				
取組内容	○様々な人や物との関わりを通して、多様な体験ができるよう環境構成を工夫し、コミュニケーション力や思考・表現力の育成を推進 ○地域、家庭などと連携し、健全な食育活動を実践					
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値	
食育講座		園児と保護者の参加人数	H29	500人	555人	
			H30	500人	525人	
取組状況・成果		・年間指導計画に基づく園活動を実施し、絵本の読み聞かせ・こども茶道教室など地域の教育力を活かした、様々な体験活動の取組を通じて、幼児が地域への関心を深めたり、人と関わる力を育んだりするきっかけとなった。 ・園庭の畑や一人一鉢栽培で、種まき、栽培、収穫体験、さらにクッキング活動を通して「食」の楽しさ、五感を通じた体験活動の喜びを味わえるように進めた。また、保護者に対し食育の大切さを伝えるため、加西市健康課、加西市いずみ会と連携して5歳児対象の食育講座を実施した。 ・目標値は食育講座の参加園児とその保護者の半数を見込んで500人に設定した。幼稚園の休園等による影響で、去年の人数より減少したが、実績数値は目標数値を上回ることができた。				
		平成29年度(10園)		平成30年度(8園)		
		太鼓演奏	1園	園児 37人	1園	園児 21人
		地域の行事に参加	10園	園児 462人	7園	園児 244人
		絵本の読み聞かせ	10園	園児 618人	5園	園児 337人
		こども茶道教室	3園	園児 105人	3園	園児 60人
		こどもヨガ教室	3園	園児 65人	3園	園児 75人
		食育講座	10園	園児・保護者 555人	8園	園児・保護者 525人
今後の取組・課題		・幼児期の心が動く体験活動(自発的な活動)が発揮できる環境を大切にしながら、保育の質を充実させ、高めていくためには、職員の協力体制と積極的な工夫力が必要である。 ・「遊びの中の学び」という教育の見えにくい部分をしっかりと可視化して、保護者に発信できるよう、情報提供、共通理解等の方法を工夫する。			評価	

取組	2	3～5歳児(36か月)の発達を見通した教育カリキュラムを実施する			
取組内容	○人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度を育むための保育内容の実践 ○異年齢交流、地域の人達との体験活動を通した人権意識・道徳性の芽生えの育成 ○健康で安全・安心な園生活を保障した園管理の実施 ○小学校教育への円滑な接続に情動知能を育てるSTARTプログラムの実践				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
市指定研究発表にかかる職員参加者		公私立園の参加延人数	H29	185人	185人
			H30	185人	174人
取組状況・成果	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程の編成・実施に取り組むことを目標にし、各園の教育目標やねらいを達成すべく、遊びの連続性を大切にしながら、3歳児から就学前までの保育カリキュラムの内容に沿って実践した。 ・各園の特徴を活かし、年間計画に異年齢交流が日常生活の中で柔軟に組み込めるように、担任同士の相互理解に努めた。また、幼小交流や地域の人との触れ合いについては、人と関わっていく力を育めるように工夫しながら実践した。 ・基本的生活習慣の定着や保護者への啓発を進めるために、生活習慣検討部会で、各年齢に応じた活用方法の検討を行った。 ・職員の資質向上を図るため、日吉幼稚園において園内研修・公開保育を5回実施し、11月の実践発表・講演会当日には、公私立幼保職員・関係者99名が参加した。当年度は私立園のキャリアアップ研修会に公立園から8名の受講があり、幼保関係者が共に学び合える機会を提供した。 ・毎月、安全点検・危機管理マニュアルの職員共通理解・関係機関連携も含めた避難訓練(火災・地震・不審者等)を実施した。 ・目標値は市指定研究園(ブロック別研修)、当日研究発表、園内職員研修者の延べ人数と私立園の受講者を含め185人を設定した。土曜午前の開催のため、各園の保育時間が重なったことにより、参加人数が目標値に届かなかった。				
今後の取組・課題	・統合によって園の組織や規模が拡大し、職員同士の共通理解が課題となる中、幼児の発達の連続性を重視し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に捉えることができるように、保育カンファレンスの場の確保に努めたい。 ・五感を通した学びが大切な幼児期に、より適切な環境を積極的に構築していくための柔軟さやチームワークの必要性を重視し、改善していくための継続的な研修機会を設けていく必要がある。また、開催時期の設定も考慮したい。				評価

取組	3	子育て相談などの機会設定と療育・保健部門と連携した子育て支援を推進する			
取組内容	○就園前の親子を対象に、育児相談並びに体験保育の場として園庭開放 ○発達障害児支援について療育・健康福祉・医療機関部門との連携を図り、加配職員を適正に配置 ○個々の特性に応じた個別の指導計画の立案及び発達に応じた支援ファイルの作成				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
支援担当職員数		特別な支援のための加配職員配置数	H29	25人	27人
			H30	27人	28人
取組状況・成果	・未就園児親子を対象に延べ25回の園庭開放や幼稚園・こども園ウークなどの公開保育を計24回開催した。また、親子参加事業等を36回開催した。今後、園に子どもを預けたいと思う保護者に対して情報提供を行い、子育ての不安解消に取り組んだ。 ・発達相談等のあった3歳児以上の園児44名を対象に、個々の実態調査を行い、支援担当職員28名を配置した。また、私立園には加配職員配置助成を3件講じ、園児や保護者との対応について相互理解を図った。 ・発達支援児の指導計画を基に個々の支援ファイルを作成し、保幼小職員間で支援ファイルをもとに情報の共有化を図った。特に就学前の児童については保育者、関係機関が保護者との相談を重ねながら、体験入学等、円滑な接続に取り組んだ。 ・公私立園の気になる園児を療育室、総合教育センターへとつなぎ、保護者と共に適切な支援の方法を探った。 ・関係機関と連携しながら、公私立園の5歳児対象児35名に対し就学に係る園訪問を実施し、教育支援委員会では17名について審議を行い、適切な就学先の指導・相談を行った。				
今後の取組・課題	・インクルーシブ教育への理解を深め、周知していくためには、職員が研修に参加できる環境をつくり、専門知識と実践力を高めた上で、園児の健やかな成長を支えられるよう具体的な支援の方法を探っていく必要がある。 ・支援を必要とする園児数が年々増加しており、加配職員の確保が厳しい状況である。しかし、丁寧な関わりがもてる環境を整えるため、引き続き職員の確保と育成に努めたい。				評価

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	2	発達や学びの連続性を保つ幼・小・中学校の連携教育を強化します
------	---	--------------------------------

【 担当課 総合教育センター 】

取組	1	小1プロブレム・中1ギャップの解消を目指した各種委員会・研修講座等の充実と、「家庭学習ハンドブック」「発達支援ファイル」の活用を推進する			
取組内容	○幼保・小・中・特別支援学校及び各種関係機関等との連携の推進 ・小中連携教育推進委員会の開催 (加西市小中連携推進プラン(H27.2月策定)に基づく各中学校区毎の取組の推進) ・発達支援プログラム(小集団トレーニング、保護者学習会、教職員連絡会等)の実施 ・発達支援ファイルの作成(様式の改訂) ・学警総連絡会兼いじめ対応ネットワーク会議(中学校区情報交換会)の開催 ○家庭学習ハンドブックを作成・配付及び活用の推進 ・平成30年度改訂版を、市内全児童生徒に配付(学級懇談会・学活等で活用方法説明)				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
特別な配慮を実施した児童生徒数		各種ネットワーク会議や学警総連絡会等で、特別な配慮が必要な児童生徒について、関わり方等を情報交換し、実際の指導等に活かした児童生徒数	H29	192人	256人
			H30	195人	220人
取組状況・成果	児童生徒理解に係る連絡会等一覧				
	会 議 名		備 考		
	小中連携教育推進委員会		年間2回開催		
	幼保小中特別支援学校ネットワーク会議		年度末に加西特別支援学校にて開催		
	学警総連絡会(中学校区情報交換会)		年間5回開催、中学校区毎に情報交換		
	・各学校や各中学校区における小中連携教育の取組の成果をアンケート調査により検証することができた。 ・推進委員会での現状報告(各校の想い等)が、各校の取組等に活かされている。 ・発達支援ファイル改訂により、ライフステージにおける幼児期から学齢期、思春期への多様なニーズに対応できる移行期支援の資料として活用を図っていくことができた。 ・学警総連絡会での児童生徒対応等の記録が、確実に引き継がれるようになった。 ・家庭学習ハンドブック平成30年度改訂版の活用方法を周知し、各校で活用されている検証した結果によりさらなる効果的な取組を検討していきたい。				
今後の取組・課題	・加西市小中連携推進プランに基づき、センターとして果たすべき役割やこれまでの活動について発達支援の視点から柔軟な見直しを行い、適切な対応と継続支援につながる実践が求められる。 ・家庭学習ハンドブック平成30年度改訂版の活用状況を把握し、効果的な取組を周知していきたい。				評価

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	3	学力向上策の充実を図り、「確かな学力」を育成します
------	---	---------------------------

【 担当課 学校教育課 】

取組	1	児童生徒の「確かな学力」を育成するため、授業改善に取り組むとともに、人的支援等によるきめ細かな指導の充実を図る				
取組内容	○かさい学力向上プロジェクト事業の実施 ○スクールサポーター（スクールアシスタント、ヤングアドバイザー、理科観察実験アシスタント等）の配置 ○学習支援システムの導入 ○加西市外国語活動推進プランの実施 ○かさいがんばりタイム（地域人材を活用した放課後の補充学習）の実施 ○かさい未来塾（地域人材を活用した長期休業中の補充学習）の実施					
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値	
全国学力・学習状況調査の平均正答率(国、算・数、理)		悉皆調査で実施される全国学力・学習状況調査における各科目の平均正答率	H29	全国平均以上	6/8科目	
			H30	全国平均以上	9/10科目	
授業(国、算・数)がよくわかると回答した児童生徒の割合		悉皆調査で実施される全国学力・学習状況調査における質問紙調査項目 ※ 肯定的な回答をした割合 ※ H30年度は、算・数で比較（国語は調査なし）	H29	全国平均以上 ()内は全国比	小82.3%(◎0.9) 中70.6%(▼1.6)	
			H30	全国平均以上 ()内は全国比	小85.5%(◎2.2) 中78.8%(◎7.8)	
普段、1日当たり1時間以上学習する児童生徒の割合		悉皆調査で実施される全国学力・学習状況調査における質問紙調査項目	H29	全国平均以上 ()内は全国比	小66.3%(◎1.9) 中75.3%(◎5.7)	
			H30	全国平均以上 ()内は全国比	小77.8%(◎11.6) 中74.6%(◎4.0)	
取組状況・成果		・学力については、全国平均以上の科目が10科目中9科目となり、前年度の割合を上回るとともに、中学校においては全ての科目で全国平均を上回っている。・授業(算・数)がよくわかると回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに昨年度より高くなっており、全国平均をも上回っている。 ・平日の家庭学習において、1時間以上学習する児童生徒の割合は、小学校で全国平均及び昨年度の本市平均よりも11ポイントを上回る高い数値を示している。中学校においては全国平均は上回っているが、昨年度の本市平均を下回った。 ・全国学力・学習状況調査の結果や日頃の学習記録から、児童生徒の実態把握に努め、スクールサポーター事業の有効活用を図り、確かな学力の定着等についてきめ細かく個に応じた支援が実現できている。				
		事業名	内 容		事業名	内 容
		かさい学力向上プロジェクト	・学力向上推進委員会の設置 4回 ・学力向上セミナー 37人参加 ・授業実践講座(2回) 44人参加 ・読書活動活性化に係る図書購入 50万円×16校		外国語活動推進プラン	・指導補助 ALT 6名全16校に配置 地元人材 全小学校585時間 ・オンライン英会話 全小学校400回実施
					学習支援システム	学習コンテンツ及びプリント教材の活用
		スクールサポーター	・スクールアシスタント、ヤングアドバイザー、理科観察実験アシスタント等のべ59人		かさいがんばりタイム	放課後補充学習 全中学校 531時間 3小学校288時間
今後の取組・課題	・「スクールサポーター事業」による教育的ニーズに応じた支援や「学習支援システム」の活用によるきめ確かな学力の定着の保障について、各校において多様な学習活動を取り入れた授業づくりを推進するとともに、効果的な活用について情報共有を図る。 ・「かさいがんばりタイム」や「かさい未来塾」等、放課後や長期休業日を利用した補充学習によって、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学習習慣の確立を図る。本年度から中学校で導入してきた事業を、小学校へ拡大させてきた。さらに各校の実態・実情に合わせた工夫ある取組の拡大を検討する。 ・新学習指導要領における外国語活動、外国語科の本格実施に向けて、小中・中高の連携教育やALTや地元人材、オンライン英会話を活用した学習の充実と教員の指導力の向上を図る。				評価	

取組	2	学校との連携を深め、子どもたちの読書活動を支援する					
取組内容	○「第二次加西市子ども読書活動推進計画」に基づき、学校との連携を深め、子どもたちの読書活動を推進 ・市内4中学校の1年生にブックトークの出前講座 ・小学校でのブックトークやお話会の出前講座 ・市内小・中・特別支援学校への団体貸出託送サービス ・学校図書館の整理に関する相談や本の廃棄作業 ・学校からの図書館見学 ・児童書等蔵書数の拡充						
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値		
小中学校へのブックトークとおはなし会の出前講座等の充実		小・中学校へのブックトーク、おはなし会や図書館見学の回数	H29	小学校 8回 中学校 4回	小学校 8回 中学校 4回		
			H30	小学校 12回 中学校 4回	小学校 17回 中学校 4回		
取組状況・成果		・年度当初に、小中学校図書担当者会で連携事業の説明会を行い、学校からの依頼申請により連携事業を実施した。					
		・ブックトーク、おはなし会や図書館見学は、全小・特支・中学校において実施できた。					
		・小中特支や幼稚園からの依頼により団体貸出託送サービスを行った。					
		・依頼のあった学校図書館の整理に関する相談や本の廃棄作業を手伝った。					
		・児童書の蔵書数は、予算の確保により順調に増加させた。					
学校連携事業の取組一覧							
		取組事業名		目標数値	実績		
		市内小・中・特別支援学校、幼稚園への団体貸出託送サービス		2,500冊	2,378冊		
		学校図書館の整理に関する相談や本の廃棄作業		3校	2校		
		児童書の蔵書数の拡充		41,000冊	41,000冊		
今後の取組・課題		・予算の確保を更に努め、学校が必要とする児童書の充実を図っていく。 ・ブックトークなどの出前講座ができる図書館スタッフやボランティアの確保と養成が必要である。			評価		

平成30年度 点検評価シート

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	4	人間形成の基盤となる自尊心・自律性・道徳性など「豊かな心」を育てます
------	---	------------------------------------

【 担当課 学校教育課 】

取組	1	児童生徒の「豊かな心」を育成するため、道徳の時間を要とした道徳教育の推進や体験活動の充実を図る																						
取組内容	○兵庫型「体験教育」の実施(県事業) ○道徳教育の充実 ○キャリア教育の推進 ○生活習慣「あ・い・う・え・お」の推進																							
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値																			
学校のきまり(規則)を守っていると思う児童生徒の割合		悉皆調査で実施される全国学力・学習状況調査における質問紙調査項目 ※ 肯定的な回答をした割合	H29	全国平均以上 ()内は全国比	小94.1%(◎1.5) 中96.5%(◎1.3)																			
			H30	全国平均以上 ()内は全国比	小94.3%(◎4.8) 中97.5%(◎2.7)																			
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合		悉皆調査で実施される全国学力・学習状況調査における質問紙調査項目 ※ 肯定的な回答をした割合	H29	全国平均以上 ()内は全国比	小94.7%(▼1.4) 中92.6%(▼0.2)																			
			H30	全国平均以上 ()内は全国比	小97.4%(◎0.6) 中98.0%(◎2.5)																			
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合		悉皆調査で実施される全国学力・学習状況調査における質問紙調査項目 ※ 肯定的な回答をした割合	H29	全国平均以上 ()内は全国比	小80.0%(◎2.1) 中73.3%(◎2.6)																			
			H30	全国平均以上 ()内は全国比	小90.2%(◎6.2) 中81.3%(◎2.5)																			
取組状況・成果	・児童生徒の道徳性に関して、規範意識は全国平均値と同様に高い数値を示している。自尊感情に関しては、小・中学校とも、本市前年比で10ポイント以上上回り、高い数値を示している。いずれの項目も、過去5年の調査の中で、最高値を示している。 ・自己実現に向けた夢や目標を持つ児童生徒の割合は小・中学校ともに過去5年の調査の中で最高値を示しているが、中学校で全国平均を下回っている。 ・「道徳の教科化」に向け、校内研修、小中合同研修、総合教育センターの講座、県教委主催研修会などについて、積極的な参加・実施を促した。特に、道徳に関する評価について担当者会における検討内容を各校へ周知し、より効果的な評価の在り方について研究を推進した。 ・キャリア教育に関する市指定研究発表会を実施し、研究の成果を各校へ周知した。																							
	<table><tr><td>事業名</td><td>内 容</td><td>事業名</td><td>内 容</td></tr><tr><td rowspan="4">兵庫型「体験教育」の実施</td><td>・環境体験(小3)391人</td><td>道徳教育の充実</td><td>「特別の教科・道徳」の授業実施 小1・34時間、小2～中3・35時間</td></tr><tr><td>・自然学校(小5)356人</td><td>キャリア教育の推進</td><td>県指定事業:北条中、北条小 市指定研究会:北条中</td></tr><tr><td>・わくわくオーケストラ教室(中1)321人</td><td rowspan="2">基本的な生活習慣の定着</td><td rowspan="2">生活習慣「あ・い・う・え・お」の推進</td></tr><tr><td>・トライやる・ウィーク(中2)365人</td></tr><tr><td></td><td>・交流・体験チャレンジ (特小5～中3)17人</td><td></td><td></td></tr></table>					事業名	内 容	事業名	内 容	兵庫型「体験教育」の実施	・環境体験(小3)391人	道徳教育の充実	「特別の教科・道徳」の授業実施 小1・34時間、小2～中3・35時間	・自然学校(小5)356人	キャリア教育の推進	県指定事業:北条中、北条小 市指定研究会:北条中	・わくわくオーケストラ教室(中1)321人	基本的な生活習慣の定着	生活習慣「あ・い・う・え・お」の推進	・トライやる・ウィーク(中2)365人		・交流・体験チャレンジ (特小5～中3)17人		
事業名	内 容	事業名	内 容																					
兵庫型「体験教育」の実施	・環境体験(小3)391人	道徳教育の充実	「特別の教科・道徳」の授業実施 小1・34時間、小2～中3・35時間																					
	・自然学校(小5)356人	キャリア教育の推進	県指定事業:北条中、北条小 市指定研究会:北条中																					
	・わくわくオーケストラ教室(中1)321人	基本的な生活習慣の定着	生活習慣「あ・い・う・え・お」の推進																					
	・トライやる・ウィーク(中2)365人																							
	・交流・体験チャレンジ (特小5～中3)17人																							
今後の取組・課題	・教科学習や特別活動、兵庫型「体験教育」と関連付けたキャリア教育を推進し、昨年度に作成した各校の全体計画や年間指導計を児童生徒の実態に合わせた改善を図るとともに、キャリア教育を核として児童生徒の自尊感情やチャレンジ精神を高める取組を進める必要がある。 ・小学校の道徳の教科化に伴う、教科書を活用した授業の実施や評価の導入について、本年度の実践をもとに各校の全体計画や年間指導計画を見直し、道徳教育のさらなる充実を図るとともに、中学校の円滑な道徳の教科化の在り方を検討する。				評価																			

取組	2	いじめの積極的な認知と、未然防止、早期発見・早期対応における組織的対応の充実を図る			
取組内容	○いじめ防止に係る取組の充実 ・加西市いじめ防止基本方針(平成26年4月策定)の見直しと改定 (各校においても「学校いじめ防止基本方針」の見直しと改定) ・加西市いじめ対応ネットワーク会議の開催 ・加西市子どもいじめ問題対策審議会の開催				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
いじめの認知件数		積極的ないじめの認知に係る認知件数	H29	—	小学生8件 中学生9件
			H30	—	小学生27件 中学生21件
取組状況・成果	いじめ対応に係る対策会議等一覧				
	会 議 名		備 考		
	加西市いじめ対応ネットワーク会議		年間5回開催(学警総連絡会と併せて実施)		
	加西市子どもいじめ問題対策審議会		年間2回開催(委員は5名、各種専門家等)		
	・いじめの未然防止(居心地のよい・居場所のある仲間づくり等)の取組を実施することを通して、児童生徒の「豊かな心」の醸成を図ることができた。 ・加西市いじめ対応ネットワーク会議を開催することを通して、いじめの未然防止、早期発見・早期対応等を図ることができた。また、各校の取組等を共有し、自校の取組等に活かすことができた。 ・いじめ問題について各方面の専門家よりの助言内容を、いじめネットワーク会議等で各学校に情報発信することで、加西市子どもいじめ問題対策審議会(年2回実施)を機能することができた。近年危惧されているネット上のいじめ問題に対する教職員の意識が高まり、保護者への啓発や学校の指導も日々変化するインターネット環境に適したものに对应できた。 ・いじめの積極的認知について各校に周知し、いじめの早期発見・早期対応を図ることができた。				
今後の取組・課題	・積極的ないじめ認知を心がけ、早期対応・指導等によって、より豊かな人間関係の構築に繋げる。				評価
	・各校の取組等について、専門家からの感想やアドバイス等を活かし、未然防止や早期対応等に繋げていきたい。				
	・加西市いじめ防止基本方針や加西市子どものいじめ防止等に関する条例等に則り、さらに具体的な取組等を推進する必要がある。				

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	5	体育や健康教育、食育を推進して「健やかな体」を育てます
------	---	-----------------------------

【 担当課 学校教育課 】

取組	1	「健やかな体」を育成するため、授業改善等を通じた体力・運動能力の向上、栄養教諭を活用した食育指導等の充実を図る				
取組内容	○かさい体力向上プロジェクト事業(H28～) ・体力向上プロジェクト委員会の設置(全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析等) ・広報誌の作成 ※加西市Webサイトにも掲載 ○「体力アップひょうご」サポート事業(H24～)[実施校]九会小、富合小 ○スクールサポーター配置事業(H27～)【再掲】 ○部活動指導員配置事業(県事業) [配置校]中学校2校 ○「部活動ガイドライン」の見直し ○食育の推進 ・栄養教諭による食育年間指導計画を作成し、それに基づいて各校の食育を推進 ・地域の特色を生かした食育推進事業学校食育実践研究大会播磨東地区大会の開催による実践発表・講演会の実施					
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査		悉皆調査で実施される全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各種目の平均数値	H29	全国平均以上	小男 5/8種目 小女 5/8種目 中男 5/9種目 中女 7/9種目	
			H30	全国平均以上	小男 1/8種目 小女 5/8種目 中男 2/9種目 中女 4/9種目	
体育の授業が楽しいと回答した児童生徒の割合		悉皆調査で実施される全国体力・運動能力、運動習慣等調査における質問紙調査項目 ※「楽しい」と回答した割合	H29	全国平均以上 ()内は全国比	小男77.2%(◎4.2) 小女61.9%(◎2.1) 中男47.0%(▼3.3) 中女35.1%(▼4.4)	
			H30	全国平均以上 ()内は全国比	小男71.4%(▼2.2) 小女70.0%(◎10.4) 中男47.4%(▼4.5) 中女37.0%(▼3.8)	
毎日朝食を食べる児童生徒の割合		悉皆調査で実施される全国学力・学習状況調査における質問紙調査項目 ※「毎日食べる」と回答した割合	H29	全国平均以上 ()内は全国比	小83.5%(▼3.5) 中86.0%(◎3.3)	
			H30	全国平均以上 ()内は全国比	小87.9%(◎3.1) 中81.6%(◎1.9)	
取組状況・成果	・実技調査において、全国平均を上回る種目が半分以上であったのは小学校5年女子のみとなり、体力・運動能力の課題が顕著となった。特に、「上体起こし」「長座体前屈」は昨年度同様全ての学年で下回っており、「力強さ」や「柔軟性」に課題が見られる。 ・体育の授業が楽しいと回答した児童生徒のうち全国平均を上回ったのは小学校5年女子のみであり、昨年度同様、中学校の男女ともに全国平均値よりも低く、50%にも満たない状況である、 ・毎日朝食を食べる児童生徒は、小・中ともに8割以上であり、全国平均値をも上回っていることから、児童生徒の食育を通じた心身の健康の保持増進に対する意識は高い。					
今後の取組・課題	・「かさい体力向上プロジェクト事業」において、児童生徒の「力強さ」や「柔軟性」を高めるための方策を提案するとともに、広報誌による家庭や地域への体力向上についての啓発を行う。 ・家庭や地域、学校が連携しながら、運動やスポーツを行ったり観戦したりする機会を設けるとともに、地元出身のアスリートとの交流によって、運動やスポーツへの関心や意欲を高める取組を推進する。 ・「体力アップひょうご」サポート事業等により外部講師を活用し、児童生徒の興味や関心、意欲を喚起する授業の実施や小中学校教員の体育の指導力向上を図るための校内外の研修会を実施する必要がある。 ・栄養教諭や地域人材を活用した計画的な食育・栄養指導により、各校の食育をさらに進める必要がある。				評価	

取組	2	安全安心な学校給食を実施する																																		
取組内容	○小中特別支援学校の完全給食の実施 ○アレルギー対応食の実施 ○地産地消の推進																																			
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値																															
市内産食材の使用量		1人当たりの年間消費重量	H29	15.0kg/人	16.7kg/人																															
			H30	17.1kg/人	17.8kg/人																															
取組状況・成果	・平成26年1月に北部学校給食センターが完成し、市内の全小・中・特別支援学校の完全給食が実施された。平成26年9月より、アレルギー対応食調理室を完備している北部学校給食センターの受配校に限り、卵除去食を実施している。地産地消の推進として、米は全て市内産のヒノヒカリを使用している。また、市内産野菜類については、季節に応じ、愛菜館、播磨農業高校、神戸大学などから購入し、富田まちづくり協議会からは地元産の大豆を使用した味噌を購入している。目標の使用量は達成した。																																			
	<table><tr><td>市内産食材名</td><td>納入者</td><td>H29重量(kg)</td><td>H30重量(kg)</td></tr><tr><td>米</td><td>県体育協会</td><td>49,627</td><td>47,807</td></tr><tr><td>野菜</td><td>愛菜館</td><td>6,297</td><td>8,559</td></tr><tr><td>野菜</td><td>播磨農業高校</td><td>60</td><td>73</td></tr><tr><td>果物</td><td>神戸大学</td><td>193</td><td>203</td></tr><tr><td>里芋</td><td>元 源</td><td>152</td><td>107</td></tr><tr><td>味噌</td><td>富田まちづくり協議会</td><td>1,387</td><td>1,924</td></tr><tr><td colspan="2">合 計</td><td>57,716</td><td>58,673</td></tr></table>				市内産食材名	納入者	H29重量(kg)	H30重量(kg)	米	県体育協会	49,627	47,807	野菜	愛菜館	6,297	8,559	野菜	播磨農業高校	60	73	果物	神戸大学	193	203	里芋	元 源	152	107	味噌	富田まちづくり協議会	1,387	1,924	合 計		57,716	58,673
	市内産食材名	納入者	H29重量(kg)	H30重量(kg)																																
	米	県体育協会	49,627	47,807																																
	野菜	愛菜館	6,297	8,559																																
	野菜	播磨農業高校	60	73																																
	果物	神戸大学	193	203																																
	里芋	元 源	152	107																																
	味噌	富田まちづくり協議会	1,387	1,924																																
	合 計		57,716	58,673																																
<table><tr><td>配食人数 (人)</td><td>3,451</td><td>3,304</td></tr><tr><td>1人当・年間消費重量(kg/人)</td><td>16.7</td><td>17.8</td></tr></table>				配食人数 (人)	3,451	3,304	1人当・年間消費重量(kg/人)	16.7	17.8																											
配食人数 (人)	3,451	3,304																																		
1人当・年間消費重量(kg/人)	16.7	17.8																																		
今後の取組・課題	・南部学校給食センターは、老朽化が進んでいるため、平成31年度以降に改築する予定。完成後は、単独調理場3施設を給食センターに吸収する。また、南部学校給食センターにアレルギー対応食調理室を整備することで、全市の学校にアレルギー対応食を配食できる。地産地消について、米は全て市内産を使用しているが、野菜は種類と生産量に限りがあるため、メニューを工夫して消費量を上げることが今後の課題である。																																			

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	6	家庭や地域と連携し、特色ある学校づくりを進めます
------	---	--------------------------

【 担当課 総合教育センター 】

取組	1	地域全体で子どもを守り育てる環境づくりを推進する			
取組内容	○家庭や地域、関係機関等の協力による、多様な体験活動・体験教育等の推進 ・学校づくり応援事業の推進(担当課:市学校教育課) ・土曜チャレンジ事業の推進 ・地域未来塾事業の推進 ・地域コーディネーターによる学校支援 ○子どもを犯罪・事故等から守り、安全・安心の地域づくりの推進 ・加西市地域子ども見守り隊の活動支援 ・ワッショイスクール推進事業の活動支援				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
地域見守り隊・ワッショイスクール等 登録者数		市内11小学校に登録している、地域子ども見守り隊とワッショイスクール等の人数の合計	H29	1,100人	1,233人
			H30	1,100人	1,089人
取組状況・成果	小学校における子ども見守り活動事業等一覧				
	事業名	H29登録人数	H30登録人数	備 考	
	ワッショイスクール	372人	347人	H15年度より順次設置(学校を神輿の如く支え持つ)	
	子ども見守り隊	861人	742人	H18.2月結成(登下校時の横断誘導・挨拶等)	
	子ども110番の家	574件	553件	連P推薦(子ども達の下校時に在宅家庭)、幟旗・シール	
	・土曜チャレンジ事業、地域未来塾事業が適切に推進され、多様な体験、夏期休業中の学力向上の機会を提供している。 ・子ども見守り活動等が、地域の理解・協力等により、毎日確実に実施され、安全安心の学校づくり・安全な登下校等に繋がっている。 ・学校・家庭・地域が、子どもたちの成長に関わる当事者として、責任と役割を果たし、互いに連携・協力して、子どもたちの教育に取り組んでいる。				
今後の取組・課題	・各学校の取組を様々な機会に広報し、地域の更なる理解・協力が得られるようにしていきたい。 ・児童数の減少により、下校時における一人帰宅者が増加傾向にある。子ども見守り隊への登録人数が各校で差があり、特に小規模校ほど一人帰宅者が多く、見守り隊登録者が少ない現状がある。				評価

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	7	教職員としての資質能力の向上、研修の充実に努めます
------	---	---------------------------

【 担当課 総合教育センター 】

取組	1	キャリアステージに応じた資質や能力の向上・育成を目指した研修講座等の充実を図る			
取組内容	○総合教育センターにおける教職員研修講座の充実 ・全教職員対象アンケート調査結果をもとに、36コース45講座の研修講座の開催 ・喫緊の教育課題をテーマとした講座、実践に即した事例研修やワークショップ、現地研修や特別研修講座等、多彩な講座の開催 ・全教職員（公立・私立幼保こども園等教諭・保育士含む）を対象とした教育講演会の開催 ・教科指導力の向上を目指した実技講座の開催 ・若手教員を対象とした授業力向上講座の開催 ・中学校教員を対象とした部活動指導者研修講座の開催 ・参加者全員を対象とした講座終了後のアンケート（講座評価・感想等）の実施				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
研修講座における受講者評価 （5点満点）		参加者全員を対象とした、講座終了後のアンケート（講座評価）結果	H29	4.5	4.62
			H30	4.5	4.66
取組状況・成果	総合教育センター教職員研修講座				
			H29	H30	
	教職員研修講座数		45講座	45講座	
	講座受講者延べ人数		1,533人	1,404人	
	・受講後アンケート調査による講座評価が、5段階平均で 4.66ポイント（昨年度比＋0.04ポイント）という高評価を得ることができた。 ・若手教員を対象とした授業力向上講座の受講者数の多さ、当日の意欲的な雰囲気、受講後評価の高さ、次回も参加したい等の希望が多かったことから、継続開設して良かったと実感できた。 ・喫緊の教育課題である道徳・英語の指導に重点を置き、指導力の向上を図ることができた。また、教科担当者会・校内研修等とのコラボ研修により、現場のニーズに対応した特別研修を実施することができた。				
今後の取組・課題	・アンケート調査から得た受講者の要望（講師・時期・内容等）に応えるとともに現場のニーズに応じた研修講座の充実に努めたい。 ・講師との打合せ等をより綿密に行い、受講者のニーズに即した講座の実施のさらなる充実に努めたい。			評価	

重点目標	2	生涯を通じた「学び」を充実します
------	---	------------------

実践目標	1	市民一人一人のニーズと社会の要請に応える「学び」の場を提供します
------	---	----------------------------------

【 担当課 生涯学習課 】

取組	1	学習機会を提供する												
取組内容	○公民館主催講座等生涯学習機会の提供 ○社会教育施設の機能の充実と条件整備 ○市広報のほか、様々な媒体を利用し、生涯学習情報の発信													
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値									
公民館主催講座数		公民館主催講座の年間講座数	H29	44	57									
			H30	55	53									
取組状況・成果	<table><tr><td></td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td></tr><tr><td>公民館主催講座数</td><td>57講座</td><td>53講座</td></tr><tr><td>公民館主催講座参加延人数</td><td>9,959人</td><td>10,238人</td></tr></table>						平成29年度	平成30年度	公民館主催講座数	57講座	53講座	公民館主催講座参加延人数	9,959人	10,238人
		平成29年度	平成30年度											
	公民館主催講座数	57講座	53講座											
	公民館主催講座参加延人数	9,959人	10,238人											
・善防公民館2階トイレの洋式化、オークタウン加西体育館のトイレ洋式化、研修棟調理室の空調設備修理を実施し、社会教育施設の機能を充実させた。														
・市広報誌、チラシ、インターネット等様々な媒体を活用し、生涯学習情報を発信した。														
今後の取組・課題	・引き続き、社会課題の解決を図る講座や地域のニーズに対応した生涯学習機会の提供に努める。 ・拠点となる公民館だけでは、講座開催に限界があるため、他部局や社会教育団体(加西市連合婦人会等)とのコラボ事業等により学習機会の拡充を図る必要がある。				評価									

重点目標	2	生涯を通じた「学び」を充実します
------	---	------------------

実践目標	2	「いつでも、どこでも、気軽に」学べる公民館活動を充実します
------	---	-------------------------------

【 担当課 生涯学習課 】

取組	1	学習成果を地域に還元する			
取組内容	○公民館登録グループ出前講座の参画グループが30グループになるように推進 ○公民館登録グループ、社会教育団体の主体的な活動の支援				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
出前講座		出前講座実施グループ数	H29	30	21
			H30	30	26
取組状況・成果	・公民館出前講座の実施グループ数は26グループ、昨年より5グループ、受講者数も約1,860人増となった。				
			平成29年度	平成30年度	
	公民館出前講座実施グループ数		21グループ	26グループ	
	公民館出前講座受講者数		1,632人	3,492人	
今後の取組・課題	・公民館で自主的に学ぶ登録グループ(平成30年度末 123グループ 新規3・解散8)の高齢化が進み、解散する団体も出てきている。公民館主催講座を契機とし、自主的なグループ活動へ移行してもらおうプログラム作りに努める。 ・公民館まちづくり出前講座は、徐々に普及してきており、今後も依頼団体と登録グループをマッチングし、学習成果を地域還元できる機会づくりに努める。				評価

重点目標	2	生涯を通じた「学び」を充実します
------	---	------------------

実践目標	3	ふるさとの豊かな歴史、文化遺産を活かしたまちづくりを進めます
------	---	--------------------------------

【 担当課 生涯学習課 】

取組	1	歴史文化基本構想を策定し、文化遺産の包括的な保護と活用を図る			
取組内容	○「加西市歴史文化遺産保存活用計画」策定に先立つ事前調査 ○市指定文化財の指定 ○指定文化財整備活用 ○未指定文化財の再評価 ○埋蔵文化財包蔵地の周知と開発計画との調整 ○地域、学校教育、イベントへの出前講座・説明会等の開催 ○史跡玉丘古墳群の整備 ○玉丘史跡公園の効率的な管理と運営				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
史跡笹塚古墳の整備		史跡笹塚古墳を整備し史跡公園として供用する。 H29:実施設計・樹木伐採 H30:整備工事	H29	100%	100%
			H30	100%	100%
取組状況・成果	・「加西市歴史文化遺産保存活用計画」策定に先立つ事前調査を実施した(1～2月)。 ・指定文化財修理1件(県指定:1件)への補助金助成を実施し整備を図った。 ・埋蔵文化財と開発計画の調整事務を371件、立会調査を2件、確認調査を8件実施。 ・出前講座・講師派遣・見学会等の開催(小学校:2校 団体・一般13件514名が参加)。 ・史跡公園(指定管理)の来園者数37,690名(前年比104%)。 ・史跡笹塚古墳を整備し、史跡公園として平成31年4月1日に供用を開始した。 ・「日本遺産」への申請を行った。				
今後の取組・課題	・平成31年度に「加西市歴史文化遺産保存活用計画」を策定し、地域に根差した歴史文化遺産の保存と活用を図る。 ・建造物の老朽化や石造物の風化等の問題、未指定文化財を含め防火防犯の問題があり、文化財の保存と維持管理の充実を図ることが課題である。 ・看板設置や情報発信、観光ルート設定等、文化財の観光資源化への取組の拡充が必要である。				評価

取組	2	地域歴史遺産の掘り起こしと活用及び文化財保存団体等の活動を支援する			
取組内容	○「文化遺産総合活用推進事業」の推進(7団体9事業) ○ふるさと創造会議や地区活動と連携した講座・講演の開催 ○青野原俘虜収容所関連調査 ○市内各文化財保存会等の活動支援(32団体)				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
ふるさと創造会議及び自治会と連携した事業の実施		連携事業を実施した回数	H29	2	2
			H30	3	5
取組状況・成果	・「文化遺産総合活用推進事業」実施、人材育成:1件、文化遺産普及啓発事業:1件、文化遺産継承事業6件(屋台:黒駒・東高室・笠屋・窪田・祭具:節句祭り祭・常吉獅子舞)など多種多様で有効な文化遺産の活用ができた。 ・ふるさと創造会議や地区活動と連携した講座・講演を開催した(3団体、5開催)。 ・青野原俘虜収容所の英語版ホームページの作成、H29年度収集資料のデータベース化。 ・収容棟の3Dデータを作成し、アプリ「加西歴ナビ」にAR搭載した。 ・文化財保存会等活動助成32団体への補助金助成実施等を通じて継続的な歴史文化遺産の保存を充実させることができた。 ・文化財サポーター研修会を実施した(1回)。				
今後の取組・課題	・歴史遺産や伝統文化の担い手である地域の文化財保存会等への活動支援の充実を図ることが課題である。 ・各地区のふるさと創造会議と連携し、地域の活性化事業へ歴史文化遺産の側面からサポートしていく。			評価	

重点目標	3	みんなで子どもの未来を応援し、支援します
------	---	----------------------

実践目標	1	子育て環境の充実を図ります
------	---	---------------

【 担当課 こども未来課 】

取組	1	幼保連携型認定こども園の整備と学童保育の充実を図る			
取組内容	○健やかな成長を支える子育て環境整備を促進し、幼保連携型認定こども園を整備、推進 ○放課後や土曜日の児童健全育成の場となる学童保育事業の充実 ○学童指導員の人材育成				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
学童保育入園者数		毎年4月1日時点の入園者数	H29	300人	334人
			H30	336人	353人
取組状況・成果	・平成30年4月に北条ならの実こども園を開設した。次いで、市内4番目の公立認定こども園となる(仮称)泉こども園の整備工事に着手し、来年4月の開園に向けて準備を進めた。 ・泉中学校区のこども園整備計画について、各園ごとに保護者説明会を開催し、園の概要や工事の進捗状況等について説明を行った。 ・こども園の園長で部会を組織し、こども園での保護者参観、音楽会、生活発表会等の年間行事について安全かつ円滑な運営ができるように開催時期や参加者の範囲の見直しを行った。 ・学童保育指導員の研修会を開催し、毎月の連絡会とともに指導員の共通理解を深めた。県の指定研修に2名が参加し、資格認定を受けた。 ・目標値は昨年目標値に富田学童、西在田学童の定員増加分36人を足して336人とした。すでに定員超過する園を除き、その他の園で、入所が全体的に増えたので、実績数値が伸びた。				
今後の取組・課題	・今年10月から始まる保育料の無償化に伴い、待機児童の増加等が予想されるため、保育士の確保については更なる努力が必要である。 ・公設による施設整備は建設に要する財源確保が課題である。 ・学童保育指導員の計画的な採用と育成支援に努めたい。				評価

取組	2	特別保育ならびに保育料の負担を軽減する			
取組内容	○延長保育、病児・病後児保育など特別保育の充実 ○多子世帯への保育料負担軽減及び一部助成の実施				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
病児・病後児保育園の利用者		年間利用者数	H29	600人	623人
			H30	600人	431人
取組状況・成果	・病児・病後児保育事業の年間利用者数について昨年同数の目標を設定したが、今年度は感染症等の影響も小さく、実績人数は大きく減少した。 ・病児・病後児保育事業に対する保護者の安心感は大いだが、制度自体の周知も広がっているため、感染症の影響を除外すれば、今後600人を超える利用者の伸びは難しいと思われる。 ・平成30年度も引き続き、4、5歳の保育料の負担軽減を実施した。また、国の保育料無償化について情報収集を行った。現在、北播全市町では4、5歳児の保育料が無償となっている。そのうち三木市は3歳児まで無料にしており、加東市は保育料を軽減するための補助金として3歳児までを対象に月額6千円を補助することで軽減を図っている。 ・多子世帯に対する保育料の軽減措置は、第2子172名、第3子81名の申請を受理した。				
今後の取組・課題	・国の保育料無償化については、待機児童の増加にもつながるため、施設の確保だけでなく保育士の確保が最優先課題となっている。受け皿や人員の確保のためには、公立園だけでなく民間園とも協力しながら取り組む必要がある。 病児病後児保育事業の浸透を図るため、これまで年間利用者数を目標値に掲げてきたが、今後は、指標設定を見直す必要がある。				評価

取組	3	親子のふれあいや地域交流を通じた子育て支援を実施する			
取組内容	○入園前のこどもがいる保護者に、親子のふれあいや親同士の交流、育児の不安や悩みを相談する場の提供。 ○民間認定こども園、民間保育所における子育てひろばの運営支援 ○子育て支援に関する情報発信の強化				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
子育てひろば利用者数		「ほくぶキッズ」、「ぜんぼうキッズ」の2施設を訪れた年間延人数	H29	25,000人	20,350人
			H30	20,000人	14,490人
取組状況・成果		・3広場のうち、「ねひめキッズ」については、学童保育施設として利用することとなり、閉園となった。1広場の減により、「ほくぶキッズ」、「ぜんぼうキッズ」の2広場で増加を見込んだが、全体の利用人数は大きく減少した。目標値は前年実績を維持できるよう設定したが、1園当たりの利用人数は増加したものの、広場の1減の影響は大きかった。 ・一定の利用数が見込める登録制の広場から、誰もがいつでも自由に参加できる広場の形態に切り替えたことで、新たな利用者の掘り起こしができたが、これまでの利用者が新たな利用形態に馴染むまでには少し時間を要した。 ・子育て専用掲示板の設置、ハンドブックの配布、メール配信サービス等を活用し、子育て支援に関する情報発信の強化に努めた。「子育てNAVI」というウェブページの年間閲覧数は、170,000件となり、昨年より伸びが緩まった。 ・健康福祉会館で行う1歳6カ月健診に出向き、受診に訪れた親子を対象に子育てひろばのPRチラシを配布し、引き続き周知を行った。			
今後の取組・課題		・それぞれの広場で特色を発揮しながら運営を行うが、低年齢から保育所に入所する児童が増えており、公立の広場では、来園者が減少傾向にある。 ・2ひろばを登録制から、誰もが自由に来訪できる方式に改めた。時間を選ばず参加できるメリットはあるが、利用者同士の交流が深まりにくいという意見も出た。登録制か自由な広場か、いずれも一長一短があるが、両方のいい面を拾えるように改善を図りたい。			評価

重点目標	3	みんなで子どもの未来を応援し、支援します
------	---	----------------------

実践目標	2	命と人権を大切に作る心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます
------	---	----------------------------------

【 担当課 総合教育センター 】

取組	1	青少年の健全育成に係る関係機関・団体等との情報交換や合同研修活動等の充実を図る			
取組内容	○青少年の非行防止・健全育成等に係る各種関係機関・団体等との連携の強化 ・市青少年補導委員連絡協議会との連携 ・県青少年センター協議会・県補導委員連合会・北播磨補導委員連絡協議会等との連携 ・北播磨県民局との連携 ・市補導委員連絡協議会・市青少年健全育成会・市連合PTA等との合同学習会の開催 ・市補導委員等による「ネット見守り監視行動」の実施 ・市内相談機関(地域福祉課・まーぶるキッズ・ぜんぼうキッズ・ほくぶキッズ・ふるさと創造課)との連携 ・小中学生のインターネット等の使用に関するアンケート調査と啓発リーフレットの作成・配付 ・市地域見守り隊・ワッショイスクール・子ども110番活動等の支援				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
見守り活動等数		補導委員による街頭補導・特別補導・ネット見守り、女性協力員による登下校等見守り・合同補導等の延べ活動人数及び合同研修会等の参加人数の合計	H29	2,500人	3,362人
			H30	2,500人	2,941人
取組状況・成果	青少年の非行防止・健全育成等に係る各種団体・連絡協議会等一覧				
	団体等名		備 考		
	加西市青少年補導委員連絡協議会		152名(市内各町代表・女性協力員・市内県立高2校代表等)		
	加西市ネット見守り隊		毎月1回(19:30～21:00)見守り活動、スキルアップ研修会等の実施		
	市総合教育センター女性協力員の会		10名(4中PTA・北高PTA・連合婦人会・更生保護女性会)		
	加西市青少年健全育成連絡協議会		10名(小学校区毎(北小・東小は合同))不審者注意啓発幟旗		
	加西市子ども会育成連絡協議会		校区・市行事(オセロ大会・親善球技大会・雪体験ツアー等)		
	加西市連合PTA		子ども見守り隊活動・子ども110番の家設置等		
	加西市青少年団体連絡協議会		デイキャンプ・新春のつどい・とんど焼き等		
	青年連絡会えんどれす		かさいサイサイ祭り「お化け屋敷大作戦」等		
・センター内に各種団体・連絡協議会等の事務局があり、担当者と代表等が連携を密にして活動できた。また、健全育成に係る各種団体・協議会等を繋ぎ合わせる役割も果たせた。					
今後の取組・課題	・児童生徒の問題行動は、インターネット等に関わるものや家庭事情によるもの等、様々な要因が絡み、複雑な様相を呈している。インターネット利用等の親子学習会の充実とSNS利用のルールづくり、センター学校サポートチーム(スクールソーシャルワーカー派遣等)による支援等の充実を図りたい。				評価

重点目標	3	みんなで子どもの未来を応援し、支援します
------	---	----------------------

実践目標	3	安全・安心な教育環境を整えます
------	---	-----------------

【 担当課 教育総務課 】

取組	1	教育施設の老朽化度合いを考慮し、各年度に実施する改修工事件数を設定し、計画的に改修工事を実施する			
取組内容	○計画的な改修工事の実施 ・教育施設の耐震化は、平成27年度に100%になり、平成28年度に旧校舎の解体撤去と外構工事が完成することで耐震化関連工事が完了した。耐震化が必要でない施設については、今後計画的に改修工事を実施し、環境改善に取り組む。 平成30年度施工計画件数3件 ①小・中学校ブロック塀改修工事 平成30年10月～平成31年3月 ②加西中学校職員トイレ棟改修工事設計委託 平成30年 5月～平成30年10月 ③加西特別支援学校 感覚学習室・体育館改修工事設計委託 平成30年 5月～平成30年7月				
指標名		指標説明	区分	目標数値	実績数値
教育施設の改修・修繕計画件数		教育施設の改修・修繕工事件数	H29	5件	5件
			H30	5件	3件
取組状況・成果	・教育施設の改修・修繕計画件数は南部学校給食センター改築工事の延期に伴い、関連工事2件を除く3件実施した。 教育施設整備事業一覧				
	工事・委託業務名		工事・委託期間		出来高
	小・中学校ブロック塀改修工事		平成30年10月25日～31年3月25日		100%
	加西中学校 職員トイレ棟改修工事設計委託		平成30年 5月 2日～30年10月31日		100%
	加西特別支援学校 感覚学習室・体育館改修工事設計委託		平成30年 5月31日～30年 7月31日		100%
今後の取組・課題	・施設の老朽化が進んでいるため、計画的に改修工事を行う必要がある。 平成31年度工事予定件数7件 ①北条小学校 雨水貯留施設整備工事 ②日吉小学校 特別教室改修工事 ③日吉小学校 プール塗装改修工事 ④西在田小学校 体育館屋根塗装工事 ⑤泉中学校 プール浄化装置改修工事 ⑥加西中学校 職員トイレ棟改築工事 ⑦加西特別支援学校 感覚学習室・体育館改修工事				評価

総合コメント

評価委員会 倉見委員の評価	概ね妥当
第2期「加西市教育振興基本計画」(平成28年度～令和2年度)の3年目を迎え、加西市教育の基本理念「新しい時代を切り拓くこころ豊かで自立した人づくり」の実現に向けて、一步一步前進しようとする姿勢が見られ、全体としては概ね妥当な取組が行われていると考えます。 個別に見ていくと、「学力向上」や「豊かな心の育成」に関する取組などについては高い成果を上げており、引き続きの成果を期待したいと思います。一方、中には、課題の分析とその対応に思料が必要な取組もあります。 今後は、これまでの取組の成果や課題、年々変化しつつある市の状況(子供の数の減少や地域住民の高齢化など)も踏まえ、各取組の目的やねらいを再確認し、その手法(やり方)を工夫・改善したり、あるいは継続したりするなど、基本理念の更なる実現に向けての取組を推進していただきたいと思います。	

評価委員会 押田委員の評価	概ね妥当
第2期「加西市教育振興基本計画」(第2期加西教育プラン)も3年目となり、前年度の点検結果を踏まえ、平成30年度も目標達成に向けて各担当が工夫改善しながら事業に取り組んでいる様子がうかがえます。特に「確かな学力」と「豊かな心」の育成は、学校での実践を教育委員会がフォローアップし、大幅な改善が図られています。また、図書館による小中学校への支援や市内産食材を使用した学校給食なども着実に展開されています。 なお、前年度と同一のコメントが一部に散見されました。形式的な点検評価ではなく、結果を踏まえ、事業の「拡大・充実」を図るもの、「縮小・廃止」をするものなどを教育委員会が真摯に協議検討し、常に事業改善に取り組むことが期待されます。	

※評価委員会の評価については、「妥当」「概ね妥当」「やや不適」「不適」の4段階評価とする。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
兵庫教育大学大学院 教授	倉見 昇一
兵庫教育大学大学院 准教授	押田 貴久